3．いさろ遺跡（第2次）発掘調査報告書

―小規模特別養護老人ホーム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

例言

1、本編は、社会福祉法人寿生会が計画する土浦市小岩田西二丁目505、506-1における小規模特別養護老人ホーム建設事業に伴う、いさろ遺跡第２次発掘調査の報告である。

2、発掘調査は土浦市教育委員会によって、平成25(2013)年12月３日から12月17日まで実施した。調査面積は約140㎡である。

3、当遺跡は、平成12年度に電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う発掘調査が行なわれたいさろ遺跡の一部である。当報告では、平成12年度の調査を第１次調査、今回調査を第２次調査として取り扱う。

4、発掘調査、整理作業、報告書作成は、宮窪ひろみ（上高津貝塚ふるさと歴史の広場社会教育指導員）が担当し、比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が補助した。

5、調査参加者【所属は平成25年度当時】

関口満・鈴木隆浩（土浦市教育委員会文化課）

比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）

宮窪ひろみ（上高津貝塚ふるさと歴史の広場社会教育指導員）

6、整理作業は調査終了後の平成25年12月から平成26年８月まで実施した。

6、本遺跡調査に関係する資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。

7、調査から当報告書作成まで、下記にご協力いただいた（敬称略）。

茨城県教育委員会文化課　社会福祉法人寿生会　株式会社クラース　窪田恵一

1　調査に至る経緯と経過

平成25年３月６日　事業者の社会福祉法人寿生会 理事長 矢口幸一氏（以下事業者と略）から土浦市教育委員会（以下市教委と略）文化課に埋蔵文化財の有無について照会があがる。

３月19日　市教委は事業者に照会地点が埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を回答する。引き続き、埋蔵文化財取扱について事業者と協議を開始し、当工事に関しては諸条件が整い次第、試掘確認調査を実施することで調整を行う。

８月７日　事業者から埋蔵文化財試掘確認調査依頼書が市教委に提出される。

８月27日　いさろ遺跡の試掘確認調査を28日まで実施。竪穴建物１軒を発見する。

９月６日　試掘調査結果を回答し、保存に向けて今後の取扱を協議。

10月24日　事業者から茨城県教育委員会（以下県教委と略）教育長あてに文化財保護法第93条第１項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出される。

10月28日　土教委発第1195号にて、埋蔵文化財発掘の届出を県教委文化課に進達。

11月５日　文第1765号にて、県教委教育長から事業者あてに周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について通知。工事着工前に発掘調査が必要であり、発掘調査の実施にあたっては市教委と協議を行う旨等を指示。

12月３日　発掘調査開始。

12月５日　市教委、土教委発第1329号にて県教委に埋蔵文化財発掘調査報告を提出。

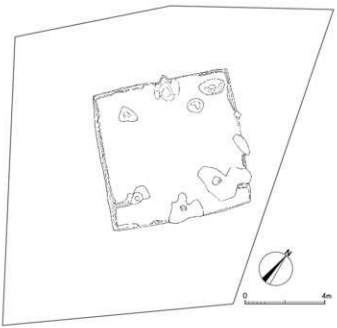
12月17日　発掘調査終了。

12月19日　市教委、土教委発第1390号にて発掘調査終了確認を県教委に依頼。市教委、土教委発第1389号にて、調査終了に伴う埋蔵物発見届を土浦警察署長に提出。

12月25日　県教委、文第2153号にて発掘調査終了を確認する。

以後、平成26年８月まで整理作業を行う。

第１図　遺跡位置図（土浦 1/25,000）



第２図　いさろ遺跡２次調査　全体図

第３図　いさろ遺跡と調査区配置図（網掛けが発掘部分）

2　遺跡の環境

当遺跡は、花室川左岸の標高約23mの筑波稲敷台地上に立地している。遺跡のある台地の左右には谷が樹枝状に貫入し、一見すると大きな舌状台地を呈している。台地の端部には各所で小支谷が入り込んでおり、切土等によって絶壁のように極端に比高差をもつ地形の特徴がある。この花室川流域は、台地縁辺を中心に遺跡が多く分布しており、遺跡周辺は国道125号バイパスや県道の新設等に伴う開発が多い地域である。

いさろ遺跡の一部は、平成12(2000)年に発掘調査が行なわれ、古墳時代中期の竪穴建物１軒と縄文時代の土坑１基、時期不明の土坑４基、溝１条が確認されている。

今回の調査区は、遺跡範囲の西側部分にあたる。現状は、山林になっており、周辺には畑や宅地が隣接している。

3　発見された遺構

第２号竪穴建物（Ｓ１－２）

規模　撹乱によって一部が破壊されているが、残存している側壁から推定すると一辺約７mの正方形を呈している。

主軸方向　N－48°－W

床　ほぼ平坦。壁からP3、P4の間に間仕切がみられる。

壁　壁溝を伴い、垂直に立ち上がっている。

貯蔵穴　北東端で１ヶ所確認された。南北約0.8m、東西約1.3mの楕円形を呈し、深さは約0.8mある。覆土は２層確認され、１層暗褐色土はロームを中量含み、２層褐色土はロームを多量に含む。

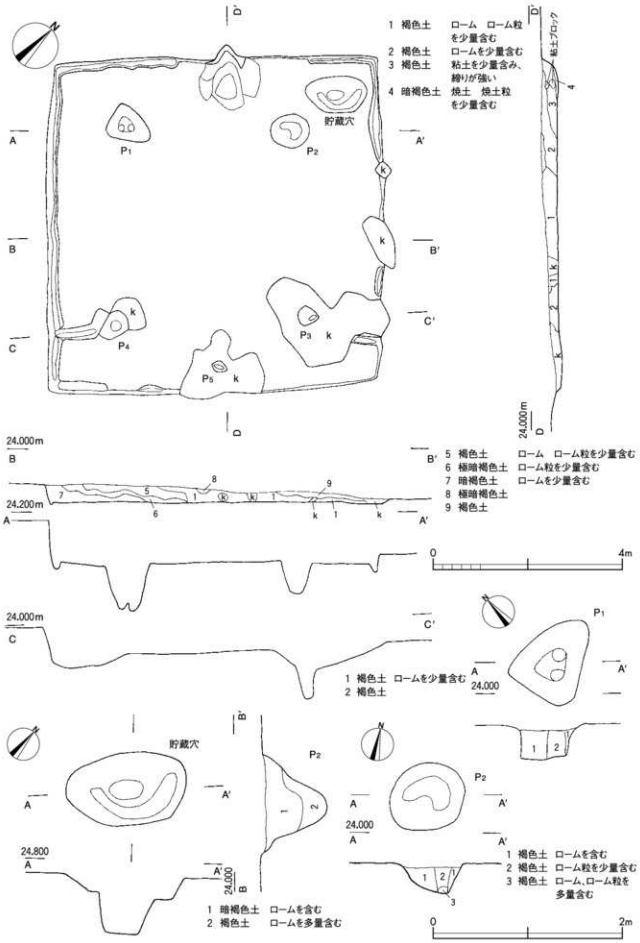
ピット　全部で５ヶ所確認され、明確に確認された柱穴は北西端のピット１と貯蔵穴脇のピット２である。ピット１は南北約0.7m、東西約0.9mあり、深さは約0.4mある。覆土は２層確認され、１層褐色土はロームを少量含み、２層褐色土である。ピット中に２ヶ所底面が確認されたことから柱替えが行なわれたと思われる。ピット２は南北約0.7m、東西約0.8mあり、深さは約0.4mある。覆土は３層確認され、１層褐色土はロームを中量含み、２層褐色土はローム粒を少量含み、３層褐色土はローム及びローム粒を多量に含む。底面は三日月形をしておりピット１同様に柱替えが行なわれたと思われる。その他３ヶ所のピットだが、撹乱をうけていた。位置関係から南東端と南西端のピットが柱穴と思われ、南壁中央付近のピットは位置から推定して出入り口に伴うものと思われる。

竈　北壁中央に構築され、主軸は一致する。残存状態は悪く、左袖は約20cmしか残っておらず、右袖は壊された状態で、天井部は遺存していない。焚口から奥壁までは約60cmあり、煙道は急に立ち上がっている。覆土は３層確認され、最下層からは焼土、焼土粒が少量しか検出しなかったことからほとんどが掻き出されたと思われる。

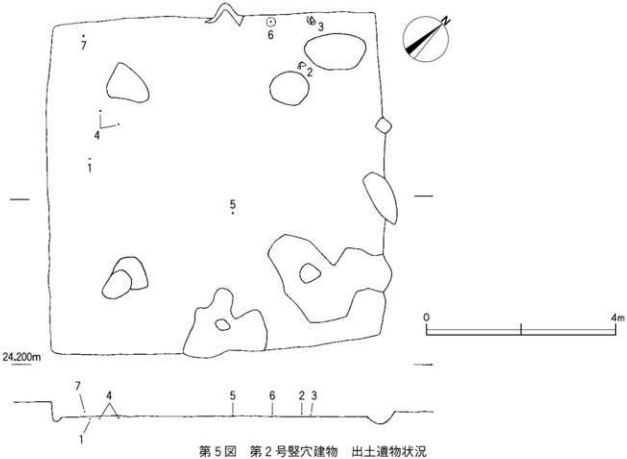
覆土　９層確認された。確認された土層のほとんどがロームを含む褐色土で、自然堆積である。

出土遺物　第６図１から７までは床面直上で出土し、８から18までは覆土中から出土した。出土した遺物のほとんどが土師器であり、坏が13点、甕が３点、鉢が１点、土製品２点が出土している。

所見　当遺跡からの出土遺物が市内に所在する石橋南遺跡の第17号住居跡や入ノ上遺跡の第129号住居跡、弁才天遺跡の第13・31号住居跡などからも類似している遺物が出土していることから、この竪穴住居も６世紀末から７世紀初頭のものと思われる。また遺構の大きさにしては遺物の量が少ないことが特徴と言えよう。



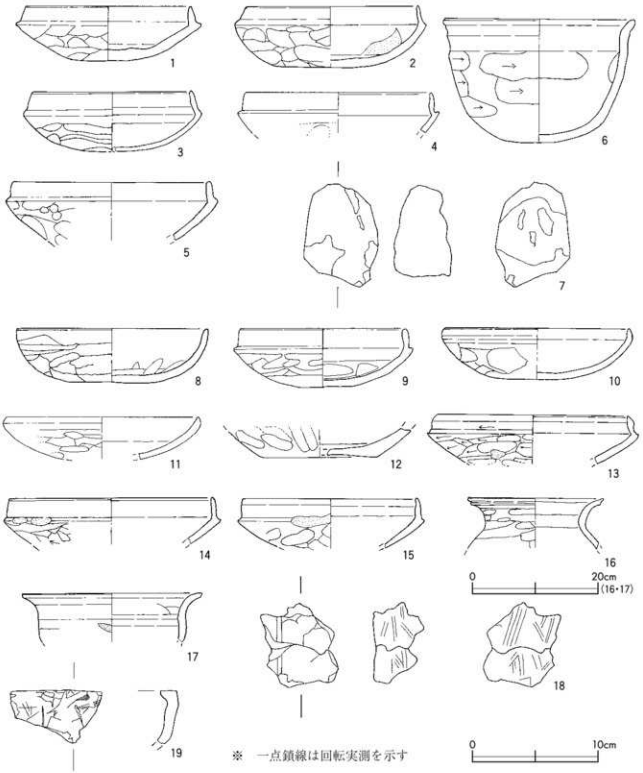
第4図 第2号竪穴建物 平面図



第５図　第２号竪穴建物　出土遺物状況

第２号竪穴建物出土遺物観察表（Ａ：口径　Ｂ：底径　Ｃ：器高）

No	種類器種	法量	出土位置 残存率	胎　土	焼成	色　調	器形の特徴	技法の特徴	備考
1	土師器 坏	A (13.0) B (3.0) C (4.3)	床面直上 90%	長石・雲母を少量 黒色粒・白色粒を微量	普通	黄橙、オリーブ黄、赤褐、暗赤	ほぼ完形。底部は丸底で口縁部付近まで曲線が連続する。口縁部は体部との境に稜をもち内傾。	底部外面は多方向からヘラ削り後ヘラナデ。体部はヘラ削り後ヘラナデ。口縁部は内外面ともに回転ナデを施す。	内外面ともに黒色処理
2	土師器 坏	A (13.5) B (5.0) C (4.8)	貯蔵穴 覆土下層 80%	長石を微量 雲母を多量	普通	橙	ほぼ完形。底部は丸底で口縁部付近まで曲線が連続する。口縁部は体部との境に稜をもち内傾。	底部外面は多方向からのヘラ削り後ヘラナデ。体部は横位でヘラナデ。口縁部及び内面は回転ナデを施す。	外面口縁部に黒色処理
3	土師器 坏	A (12.6) B (3.0) C (4.7)	覆土下層 40%	長石・雲母を多量石英・黒色粒・微量	普通	にぶい橙、橙、褐灰。	底部から口縁部片。底部は丸底で口縁部付近まで曲線が連続する。口縁部は体部の境に稜をもち内傾。	底部外面は多方向からのヘラ削り後ヘラナデ。体部はヘラ削り後横位のヘラナデ。稜部は内外横位のミガキ。体部内面ミガキ。	外面口縁部に黒色処理
4	土師器 坏	A (14.6) C (3.2)	床面直上 10%	雲母・白色粒を微量	普通	褐色、明黄褐	体部上位から口縁部片。体部と口縁部の境に稜と段をもって直立する。	外面、内面ともに回転ナデを施す。	内外面黒色処理
5	土師器 坏	A (15.6) C (4.5)	床面直上 10%	雲母を少量 長石を微量	不良	黄橙	体部上位から口縁部片。直線が連続し、体部と口縁部の境に稜と段をもって直立する。	体部外面は横位のヘラナデ後部分的に削り。口縁部は回転ナデ、体部内面はヨコナデを施す。	内外面黒色処理
6	土師器 鉢	A (15.0) B (2.2) C (9.7)	覆土下層 90%	長石を多量 白色粒を微量	不良	赤褐色、黒色	ほぼ完形。底部は丸底で口縁部付近まで曲線が連続する。口縁部は外反ぎみに立ち上がる。	外面底部は多方向からのヘラ削り後ナデ調整。体部は横位にナデ削り又はヘラナデ。口縁部及び内面には回転ナデを施す。	
7	土製品 カマド支脚	C (7.4) D (5.8)	覆土下層 20%	石英・長石・白色粒・黒色粒を多量	普通	橙色、黄橙色	粘土を楕円形に成形したもの。	外面にはヘラ削りを施す。	
8	土師器 坏	A (15.0) B (6.3) C (4.2)	覆土中 50%	雲母を多量 長石を少量 赤色粒・黒色粒を微量	普通	にぶい赤褐色、黒色、橙色、暗赤褐色	底部は平坦気味な丸底を呈し、体部から口縁部にかけて直線が連続する。口縁部は体部の境から垂直に立ち上がる。	底部外面は多方向よりヘラ削り後ヘラナデを施す。体部下位はヘラ削り及びヘラナデを施し、体部上部は横位にヘラナデを施す。口縁部は回転ナデを施す。体部内面ミガキ。	
9	土師器 坏	A (13.0) B (4.6) C (4.6)	覆土中 80%	雲母を多量 石英・長石・赤色粒を微量	普通	橙色、褐灰色	底部は平坦気味で、体部から口縁部にかけて直線が連続している。体部と口縁部の境に稜をもち内傾しながら立ち上がる。	底部外面はヘラ削り又はヘラナデを施し、体部は多方向よりヘラ削り後横位のヘラナデを施す。口縁部は回転ナデを施す。	体部外面の一部に黒色処理



第６図　第２号竪穴建物（１～18）・遺構外（19）　出土遺物

No	種類器種	法量	出土位置 残存率	胎　土	焼成	色　調	器形の特徴	技法の特徴	備考
10	土師器 坏	A (14.4) B (5.0) C (4.0)	覆土中 40%	雲母を少量石英・長石を微量	普通	明赤褐色、褐色	底部はわずかに平担面を呈し、口縁部付近まで曲線が連続する。体部と口縁部の境に稜をもち、内傾ぎみに立ち上がる。	底部外面は多方向よりヘラ削り を施す。体部はヘラ削り後ヘラナデを施し、口縁部は回転ナデを施す。	内外面黑色処理
11	土師器 坏	A (15.6) C (3.3)	覆土中 10%	雲母を少量 石英を微量	普通	黄橙色、にぶい橙色	曲線が連続し、体部と口縁部の境に稜をもち内傾。	体部外面は多方向からヘラ削り を施す。体部と口縁部の境には横位のヘラナデを施し、口縁部は回転ナデを施す。	内面黑色処理
12	土師器 椀	B (9.0) C (2.2)	覆土中 10%	石英・長石・雲母を多量 白色粒を少量	不良	橙色、褐灰色、赤褐色	底部は平担で、丸みをもちながら立ち上がる。	底部外面はヘラ削り後ヘラナデを施す。体部はヘラ削り又はヘラナデを施す。	底部外面の中央付近に炭化物付着
13	土師器 坏	A (15.0) C (3.8)	覆土中 10%	石英・雲母を少量	普通	明赤褐色、黑褐色、淺橙色、橙色	曲線が連続し、体部と口縁部の境に稜をもち内傾する。	体部は横位のヘラ削り後ヘラナデを施し、口縁部は回転ナデを施す。体部内面はヘラナデ後磨きを施す。	
14	土師器 坏	A (16.2) C (3.6)	覆土中 10%	雲母を少量 長石を微量	普通	黄橙色、橙色、黑褐色	曲線が連続し、体部と口縁部の境に稜と段をもち内傾ぎみに立ち上がる。	体部外面は多方向からヘラ削り後ヘラナデ、口縁部は回転ナデ。体部内面は横位のヘラナデ後磨きを施す。	外面黑色処理
15	土師器 坏	A (14.0) C (3.7)	覆土中 10%	雲母を少量 石英・白色粒を微量	普通	黄橙色	曲線が連続し、体部と口縁部の境に稜をもち内傾ぎみに立ち上がる。	体部外面は多方向からヘラ削り後横位のヘラナデし、口縁部は回転ナデ。体部内面は磨きを施す。	内外面黑色処理
16	土師器 椀	A (21.0) C (7.8)	覆土中 10%	石英・長石・雲母を多量	不良	橙色、褐灰色、灰褐色	頸部から口縁部片。頸部は口縁部にかけて緩やかな「く」の字を描く。頸部と口縁部の境には段を持って外開しながら立ち上がる。口唇部つまみ上げ。	頸部外面はヘラ削り後横位のヘラナデ。口縁部外面は回転ナデを施す。	
17	土師器 椀	A (28.0) C (7.5)	覆土中 10%	石英：微量長石・雲母：少量黑色、白色粒：多量	不良	橙色	体部上位から口縁部片。口縁部は外反ぎみに大きくひらく。	内外面ともに体部は横位のヘラナデ。口縁部は回転ナデを施す。	底部外面に炭化物付着
18	カマド内 甕片	E (78)	覆土中 10%	石英・長石：少量黑色粒：微量	不良	明赤褐色、黄橙色橙色、灰色	カマド内壁片。粘土に紙物が混ぜて作られている。植物の混入が明瞭である。		

遺構外出土遺物観察表

No	器種器形	法量	出土位置 残存率	胎　土	焼成	色　調	器形の特徴	技法の特徴	備考
19	土師質土器 内耳鍋		表採 10%	雲母：多量 白色粒：微量	普通	にぶい黄橙色、褐灰色	口縁部片。	内外面ともにヘラナデを施す。	外面に深い キズが刻まれている。

4　まとめ

今回の調査では古墳時代後期の遺構・遺物が確認された。遺構としては竪穴建物１軒であり、建物内に竈、貯蔵穴、柱穴、ピットを確認することができた。出土遺物は、竪穴建物から６世紀末から７世紀初頭の土師器が出土し、表採の出土遺物としては１点、中世の土師質土器（内耳鍋）が出土している。

花室川下流地域は古墳時代中期・後期の遺跡が多くあり、遺跡周辺には今回確認された建物と同時期と思われる阿ら地遺跡や才ノ内遺跡などがある。今後は、周辺遺跡及び平成12年度に行われたいさろ遺跡の結果を踏まえて地域相の検討が課題となろう。

◎ 参考文献

『いさろ遺跡　電話用アンテナ施設他の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2001年
編集　いさろ遺跡調査会　発行 土浦市教育委員会
『阿ら地遺跡―特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』2002年
編集　阿ら地遺跡調査会　発行　土浦市教育委員会
『東出・神出・中居遺跡　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1999年
編集・発行　土浦市遺跡調査会
『土浦市遺跡地図』2011年　土浦市教育委員会
『土浦の遺跡―埋蔵文化財包蔵地―』1984年　土浦市教育委員会
『土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報』第６号　2000年　上高津貝塚ふるさと歴史の広場
『土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報』第８号　2003年　上高津貝塚ふるさと歴史の広場

報告書抄録

ふりがな	かみたかつかいづかふるさとれきしのひろばねんぽう
書名	上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報
副書名	
巻次	第20号
シリーズ名	
編著者名	比毛 君男・宮窪 ひろみ
編集発行機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場（土浦市教育委員会）
所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843　TEL 029(826)7111
発行年月日	2015(平成27)年3月13日

ふりがな	ふりがな	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺構番号	北緯	東経			
いさろ遺跡	つちうら し こいはた 土浦市小岩田 にし 西二丁目505	203	090	36° 3′ 29″	140° 11′ 23″	2013年 12月3日～ 12月17日	約140㎡	小規模特別養護老人ホームの建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いさろ遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物1軒	土師器、土製品（カマド壁、支脚）	古墳時代後期の竪穴建物を発見した。

写真図版1

調査区全景（南より）

南北土層断面（北側）

南北土層断面（南側）

東西土層断面（東側）

東西土層断面（西側）

カマド完掘

カマド部分土層断面

カマド付近遺物出土状況

貯蔵穴土層断面

貯蔵穴内遺物出土状況

貯蔵穴付近遺物出土状況

出土遺物

1

2

9

8

16

10

7

18

出土遺物